



いいたて

議会だより



村民体育大会（宝拾い）

平成22年9月定例会

決算審査特別委員会	2～3
9月定例会議案審議	4
一般質問「6議員が村政を問う」	5～10
所管事務調査報告	11
請願・陳情「2件採択」	12

No.49

平成22年11月5日
発行：飯館村議会

21年度の予算執行について総括的に検討を加える決算審査特別委員会が9月13日～15に開催されました。その審議内容の一部を掲載します。



税金の徴収率の低下 どう対応するのか

質問 村税の徴収率の低下、及び滞納が増えている原因をどう考えるのか。

答弁 厳しい経済情勢が続く中、納税頂くのが困難になる方が多くなっていると考える。しかし、厳しい状況の中でもきちんと納税されている方もおり、いづも納税に当たっては公平性が問われる。滞納者の方の

緊急雇用対策事業の利用による納税等の成果はどの程度あったのか。

答弁 金額はわずかであるが一定程度納入は見られた。

質問 何らかの方法で収入を得てもらおうという点からもっと積極的な声かけがあってもいいのでは。

答弁 今後ともこのような雇用があった場合は進めていきたい。



▲公金の管理を行っている会計室

総合検診事業

いかに受診率を高めるか

質問 総合検診事業について、大変な予算を使って実施しているが、受診率あまり良くない事と、要精密検査になってもその後の受診を受けない方がいるようだが、何か対策



▲健康づくりの基本である総合検診事業

を考えているのか。

答弁 保健協力委員さんを通して希望なりアンケートをとって実施しているが、会社で受診したり、定期的に個人で受診されたりしている方もおり、村で

の検診を受けない方も多いと思われる。病気の早期発見は、早期回復につながることを伝えることが検診率を上げることにつながり、結び付くと思われる。

質問 要精密検査が必要という結果が出て受診されない方への対応は。

答弁 特にガン検診については未受診リストにより受診勧奨を行っている。それにもかかわらず、多忙等を理由に受けない方もいらっしゃるのので何回もお願いして受診頂くよう努めていきたい。

質問 45歳と55歳に実施するスーパー精密検査の受診率も半分程度だが、高める工夫は。

答弁 もし該当する年に受診できなかった場合は翌年でも受けていただくよう今後検討して参りたい。

決算審査特別委員会

更なる有効活用を

「農地・水・環境保全向上対策事業」



▲「農地・水・環境事業」の生物調査

質問 21年度で3年目を迎える「農地・水・環境事業」の繰越金が非常に多いが、どのような対策を考えているのか。

答弁 全体での繰越金の割合が31%となっており、県の指導である30%以下より若干多い状況である。研修会として3地区の取り組

み状況を事例発表として行った。有効に活用されている例もあるのですが、勉強会を実施しながらなるべく繰越金が残らないよう進めていきたい。

質問 農地・水・環境事業における繰越金の問題は活動当初より指摘されており、保全会同士の情報交換が重要

とされてきた。もっと早くから実施に至っていれば更なる有効活用が図れたのではないかと答弁 この事業はメニュー方式でそれぞれ制限金額があることにより、使い切ることが難しいことが予想されていた。しかし、最近になって理由があれば上限を越してもよいとの方針が出され、事前の機能診断を細かくやることで活用を図れるものと思われる。

耕作放棄地の実態は

質問 耕作放棄地対策協議会が設立されたが、協議会の成果と放棄地の実態は。

答弁 農業委員会と連携しながら、再生利用計画を立て今後利用を図っていく。再生可能な耕作放棄地は35・6ヘクタールという結果となっている。

早ね・早おき・朝ごはん どのような成果が

質問 早ね、早おき、朝ごはん、弁当の日、食育推進などを取り組んできたが、その成果は。

答弁 全国学力状況調査において、生活状況を調査する項目で見ると、当村では大きく標準を上回っている。ただ一人で食べる傾向が多く気になっている。

質問 この運動を起す前と後ではどのような改善が見られたのか。目指す方向に変化が見られるのか。

答弁 毎日朝食を取る子供や、早起きや早寝等の項目すべてに改善がみられ、県平均より上回っており、基本的な生活習慣では一定の効果がでている。



▲今日は「弁当の日」です

議案審議

ザ・議論

9月定例議会では
補正予算などの議案審議を通して
次のような議論が交わされました

庁舎内の空調設備工事

質問 エアコン導入に伴うランニングコストは。

答弁 今回の空調については冷暖房という事で有効に使って一番良い方向でそれぞれの

庁舎内の環境を整える訳で一概にコストを比較する事はむずかしい。見込みとして年間180万円くらいで月額15万円くらいと思われる。

▲庁舎内エアコン導入



質問 設備費が2,625万円との事ですが費用対効果は。

答弁 今まで冷房設備は必要ないという事で付けていなかったが、ここ2、3年の猛暑で来客や職員の我慢も限界にきている様です。働く環境を整え住民サービスの向上につながればと考えている。

大師堂住宅団地の造成工事

質問 土地購入費と造成工事費、合わせると高額になり一区画360万円から580万円の計算になるが完売できるのか。

答弁 一部村負担も含め補助率90%ですというような事でセンター地区の宅地販売もしておりますのでそれに合わせて今回も同じような売買条件にしていきたい。

緊急雇用対策事業

質問 大火山つつじの森の整備を引き続き議員OBという限られた枠の中の雇用となるのか、伺う。

答弁 今までは議員OB会の方が中心となっていて進めてきたが、今後はOB会の方も一般の方も含めて進めるようにしていきたい。



▲観光資源の期待が持てる大火山のつつじの森

質問 大火山のつつじの森、今回で10ヘクタール整備されるが、今後の計画は。

答弁 緊急雇用対策事業がで始めた事業でここまで進んだ。今年度の整備後は、今ある資源を有効に活用しながら多くの投資は無理としても最低限の管理ぐらいのところまではもって行きたいと考えている。

村政

ここが ききたい?

一般質問 Q&A



問 自然を活かす観光は 体験交流観光を進める

質問

農林業と観光を農商工連携で取り組む政策として、村農村振興計画と活性化構想があるが、求められている観光は、「見る、食べる、遊ぶ」観光から「体験する、交流する、学ぶ」観光へと変わってきている。

答弁

本村を取り巻く広域連携の中で、いわゆる観光地に属さない相双地方としては、「体験し、交流し、学ぶ」観光を推進していくことで一致している。村は、本村の自然景観を活かした体験・交流を基本とし、あいの沢を観光拠点と位置付け、宿泊体験館「きこり」をはじめとする各種施設を整備し、今後も広域的な連携を視野に入れた



佐藤 長平 議員

整備計画を進めている。又、田舎暮らしや農業体験をメニューとした「まていな休日」事業や目黒学院の教育旅行等の受け入れは、本村の自然条件を活かした観光・交流事業であるが、体験交流を進めるには、村民の受け入れに対する理解と協力が不可欠であり、受け入れ体制づくりに関する支援を行い、観光産業の振興を図って参りたい。



▲「まていな休日」事業



松下 義喜 議員

問 野菜や花卉の所得向上
対策は

答 補助事業に頼らず自助努力願いたい

質問 春の遅霜や低温、夏の高温による被害対策として、①春ブロッコリーのパスライト全面積普及のための補助事業、②夏秋野菜及び花卉の高温被害対策補助事業、インゲン、リンドウ、トルコギキョウ、ほうれん草等の適期出荷の補助事業について伺う。

答弁 彼岸出荷対策として、急ぎよ、村単独で12件の遮光幕の補助を実施しましたが、村の補助的な考え方は、農家の自立した経営や創意工夫、さらに経済団体の支援に問題を及ぼすこととなるので自助努力を願いたい。

**飯館産子牛導入
促進のさらなる
振興策について**

質問 飯館産子牛を導入する肥育農家へ村独自の助成事業実施について伺う。

答弁 各関係団体と協議し、予算に反映できるものについては検討をする。

**農地の用排水路
のU字溝敷設対
策事業について**

質問 今年度の実施要望はどのくらいあったのか。

答弁 18行政区で111箇所、延長13キロメートル、事業費1億800万円の要望。

質問

要望された分は国の補助事業ですべて実施できるのか。

答弁

今年度の実施は無理なため、来年度から5カ年計画で国庫補助事業で実施できる見込み。

質問

もし国の補助事業ですべてできない場合、村単事業で実施するか。

答弁

村単事業では実施しない。

質問

飯館牛を振興させる目的で設置されたブランド推進協議会は、現在どのような振興策を協議しているのか、今後どのように運営するか伺う。

答弁

近年は連携がうまくいかず活動が停滞している。今後飯館牛振興の目的に沿って運営する。



▲猛暑で開花の遅れたリンドウ

問 異常気象による減収対策は
答 大幅な減収となれば検討する

質問

水稲は豊作が見込まれるが、米価の下落と野菜、花卉類は、春の低温による減収と夏の高温と少雨による被害は甚大であり農家経済に大きな影響を及ぼしているので対策について伺う。

答弁

野菜、花卉等も高温による異常気象により、販売が大幅に減少する見込みである。トルコギキョウは、高温推移

により出荷が早まり、全国的に出荷が増大し相場が低迷した。さらに高温により出荷が進み彼岸向けにも影響を及ぼすため、村単の緊急対策事業としてトルコギキョウ用の遮光幕の導入補助を決めた。

は、春先の低温による品質低下により前年比39%減となり生産者にとって非常に厳しい結果でした。今後は最終的な販売を調査し、大

幅な減収になれば補正予算の対応も検討したいと考えている。

**エコハウス
「まじいな家」
の運営について**

質問

多くの村民は期待より心配が多いように思われる。今後の運営と村民にどう活用を図っていくのか伺う。

答弁

エコハウスの設置目的は政府が地球環境の温暖化防止対策の一環ということで、住宅部門から二酸化炭素排出量を半減するための



伊東 利 議員

「モデルハウス」として、農村型を提案した本村が選ばれ「まじいな家」を建設したが、村内におけるエコハウスの普及という点では、本村の年間の住宅新築戸数や増改築戸数を考えるとそう多くはない

わけでエコハウスの普及以外に「環境学習」「まじいな暮らしの普及啓発」「都市農村交流」の3つの事業を柱として多くの村民の皆さんに足を運んでいただけよう、多面的な運営を図っている。



▲高温に悩むトルコギキョウ



飯樋 善二郎 議員

問 柔剣道場の解体後の計画は

答 利用可能な機能を有する施設を
考えていく

質問

耐震基準に適合しない柔剣道場が近いうちに、取り壊しとなる計画があるが、飯樋地区に最後に残った、唯一の公共施設がなくなるとなれば、地区民にとって大変不便な事である。それに変わる施設がどんな形であれ必要と思われるが、村の考えを伺う。

答弁

柔剣道場は38年が経

質問

日本で最も美しい村連合に加盟申請していた飯館村が、加盟が認められるようであるが今後の様な事を進めて行くのか、基本計画はどうか伺う。

答弁

日本で最も美しい村連合は農山村の景観や環境文化を守り、小さくとも輝く村を作る事を目的として設立されました。この度村の地域資源を活かした活動が評価され、審査基準を満たしていると判断されました。しかしそのための課題もある。

集客への努力や来村者への発信力の強化、地域資源の強化、景観等の重点整備を含め、村民所得の向上に繋がる美しい村づくりを進めて行きます。



▲築38年の柔剣道場

問 村産品加工・開発・研究の状況は

答 付加価値をつけ販売する

質問

6次産業化産品開発
研究事業で、アドバイ
ザーによる産品加工開
発費が、420万円予
算されたが現在の進捗
状況は。

答弁

6次産業化推進につ
いて、アドバイザーに
加工施設建設並びに加
工品の開発、研究を進
めており、大手食品メー
カーと委託契約を締結
し、村農産物を使って

加工品の検討をしてい
るが、一般野菜では特
徴を出せないため、飯
館牛をメインにA3以
上のブランド以外の牛
肉で加工し、付加価値
を高め販売できるよう
協議している。

質問

学力向上について、
学習指導や授業の改善
で学力アップする考え
と、全国学力テスト4
年連続トップ級の秋田
県の学習指導を学ぶた

答弁

め、村の教育に携わる
方々も研修会等に参加
し、指導の工夫で生徒
のやる気アップすべき
でないか。

査の導入に努めている。
また、保護者の勢声も
大切であるといわれて
いる。

内では、救急車が到着
まで時間がかかり手遅
れのケースが少なくな
いので周辺地区から早
急な設置を。

答弁

周辺地区への設置の
必要性は十分認識して
おり、やる気つながり

プラン等に組み込んで
導入を検討いただき行
政区長会で設置要望を
取りまとめた旨の話
しをしておりますので、
引き続き働きかけてい
く。



北原 経 議員



▲大手食品メーカーと委託契約



佐藤 八郎 議員

問 村民の暮らしを村民の立場で見て希望ある村づくりをするが相談会を充実させていく

質問

生活する中で経済・介護・医療等による悩みがあり、明日に希望を持って生きがいを見出せないで自殺する村民がいるが、社会保障・生活保護等、各種制度の活用を十分にできるよう改善を求める。

答弁

村・社会福祉協議会等連携する中で、各種制度の周知、心の健康

答弁 国保制度は国で決定するもので、村では出来るものはない。

質問

相談会、雇用の場確保等を進めながら、困りごとの相談体制の充実を図っていく。

質問

国保税が高すぎるために納められないと保険証を渡さない村のやり方はやめるべきである。村民への「生活費に税金をかけない」「命と健康を守る」ために、村民のためになる対応をすべきである。

子ども健全育成をどうしていくのか

義務教育の無償化について国の動きがあるが、就学援助の認定基準、支給金額、支給費目と単価も村にまかせられる。更に、障害ある子供達の教育保障のため予算と人員配置。保育所の最低基準廃止等国の動き。

学童保育は保育所にある最低基準・減免制

度もなく、国からの補助金が少ない等の実態であるが、安全安心で子供を託せるよう村の責任と役割を果たすべきである。

答弁

就学援助は国に合わせ、村独自の負担軽減は困難。障害ある子供へは国の補助による予算と特別支援員配置。保育所の施設設備等充実。

学童保育については指導員の指導力向上等根本的に検討必要である。

質問

農業をめぐる生産所得減少に対して、支援と再生産に向けた就農意欲を高めるためにも、長期・短期を組み合わせた新たな気候への対応と見通しを具体的に示すべきである。

質問

今後実績を見て必要

答弁

あれば対応する。県・農協と連携し新たな作物を検討する。



▲子供達も安心登校

総務文教常任委員会所管事務調査報告

相農飯館校の存続のため特色ある学校づくりの状況について平成22年7月6日(火)、北海道おといねっふ美術工芸高等学校を訪問調査を行いました。

音威子府村は、過疎の村で人口が900人以下で、小中学校が各1校、道立高校は以前からあったが、過疎が急速に進み、廃校の状況にあったが当時の村長が各方面に努力して残した。

村立高校としたのは、昭和58年で、当時は28人程度の規模であったが特色ある学校づくりが、テレビで紹介されたことで年々受験生が増加し現在は定員を満了した状況である。

生徒の約95%は村外の生徒であり、全員が

住民票を移し全寮制とし、生徒全員が村祭り等に毎年参加している。学校にかかる費用は、約2億5000万円であるが多くは交付税で賄われる。村の財政負担は交付税を除いて約5000万円である。

学校関係者も含めて人口の約16%を占め経済効果や高齢者比率の抑制にもなっている。本村でも飯館校を特色ある学校としていけば生徒が集まることは、同校が実証していると思われる。



▲道の駅に飾られた生徒の作品

本村の産業振興等に反映させるため、平成22年7月13日(火)

(1)中山間地の6次産業化及び販路拡大の取組みについて、
(2)就農支援、遊休農地解消等の取組みについて、
(3)農協・商工会等との連携について、岩手県陸前高田市役所を訪問調査いたしました。

(1)特産品生産の取組みは、菌床きくらげ、トマト生産(カゴメと契約)に市から苗代助成(市75円、JA25円)している。

(2)新規就農者支援の取組み(3組織で連携し、育成、支援を行っている)
①農林水産部農林課、②農業振興対策室、農業改良センターとの共同、③総合営農指導



▲陸前高田市 産業まつり

センター、研究生への助成金(平成13年から17年月5万円、平成18年から、月4万円)を1年間限度で一括支給。

就農者育成への助成金、月4万円を1年間限度で支給する。
(3)荒廃地解消の取組み、担い手育成総合支援協議会で耕作放棄地対策を実施する。

(4)給食への地産地消の取組み、直売所や個人が納入、市全体で年間2億円の売り上げとなっている。

本村も、自然などの実態をきちんと把握し村民の持っている能力技術など十分生かせるような施策とすべきである。

産業厚生常任委員会所管事務調査報告

福島大学教授による講演会の開催について

主催

飯舘村議会

開催日

平成22年11月10日

講演内容

〈第1部〉 地方分権と議会の役割 午後3時～4時20分

〈第2部〉 議会活動報告 午後4時30分～5時

場所

飯舘村役場議場

多くの皆様のご聴講をお待ちいたします。



議会を傍聴してみませんか

次回の議会は12月中旬の予定です。
役場庁舎玄関ロビーでテレビ放送もしています。

請願・陳情

◇米価の大暴落に歯止めをかけるための請願（採択）
◇免税軽油制度の継続を求める請願（採択）



議会村民懇談会で改修等の要望の現地調査する議員

発行責任者
議長 佐藤 長平
編集
（広報編集特別委員会）
委員長 大和田和夫
副委員長 菅野 義人
委員 大谷 友孝
委員 北原 経
委員 飯樋善二郎
委員 松下 義喜

秋の収穫も終わり、米の反収は上がったが等級が悪く、また米余りの折、米価が上がらず、農家の所得は大変厳しい状態であるが、農業を守るためにも、腰砕けず頑張ろうではありませんか。
農作業の片付けが終わる頃は、木枯らしの吹く時期がやってきます。風邪等ひかぬよう健康に留意してください。

編集
後記

